



学校だより

# 後川

No. 8

令和2年8月25日（火）発行

四万十市立後川中学校

## 特別な2学期 開始

8/25(火)、例年より1週間早く2学期が始まりました。

7月の終業式では、勉強や部活動をはじめ、読書やものづくりなど自分の好きなことを思う存分にチャレンジする『特別な夏休み』を過ごそうと話したことでした。休み中には「ライトアップ」や廃品回収・愛校作業もあり、子どもたちは、地域との交流や自分たちの学校の環境整備など充実した時間を過ごすことができました。また、生徒たちは、宿題をはじめ、部活動や運動会の準備など、全学年で取り組むことがたくさんある夏休みでした。休み期間中も、何事も最後まで協力しながらやり抜く姿など、後川中学校のすばらしさを数多く見せてくれました。体も心も成長し、たくましさとおもひよさが増した後川中学校の生徒たちです。

さあ、今日から2学期が始まりました。運動会や霜月祭など大きな学校行事があります。まだまだ新型コロナウイルスの影響が心配な状況ですので、それぞれの行事や活動はまたまたみんながアイデアを出し合い、工夫しながら取り組むことが必要となるでしょう。『特別な2学期』を校訓「自尊・共生・創造」を合い言葉に、みんなが協力し合い、乗り切っていくことを確認して2学期が始まりました。今学期も子どもたちへの応援・支援をよろしくをお願いします。

### 廃品回収・愛校作業のお礼

8/23(日)、早朝からの廃品回収・愛校作業へのご協力ありがとうございました。地域からの回収や仕分け、荷積みをはじめ、通学路や校庭の除草作業等、暑いなかにもかかわりませず、皆様にご協力いただき予定どおりに実施することができました。おかげさまできれいに整備されたなかで、子どもたちは2学期を迎えることができました。感謝申し上げます。

### 【田辺豊建設の皆さん ありがとうございます！】

市内具同に事業所を置く(株)田辺豊建設様より、社会貢献事業の一環として環境整備等に係る作業役務の申し出をいただきました。本校は、校庭樹木の高枝の剪定と通学路土手の草刈りをお願いしたところ、8/20～22にかけて無償で作業をしてくださいました。樹木が伸び、枝が茂っていたところをきれいにしていただき校庭の見晴らしがよくなりました。伸びていた土手の草もなくなり、自転車通学が安全にできるようになりました。事業所の皆様、計画や下見、炎天下での作業と大変お世話になりました。

ありがとうございました。



【裏面にて高知新聞に掲載された生徒の記事・俳句を紹介します。】

高知新聞 8月14日(土)に「中学校特派員だより」に掲載されました。  
おめでとうございます。

# 考えよう! 「命を守る」方法

おぼれたら「浮いて待つ」

★四万十市・後川中★

消防の方が来て、救命方法の学習をしました。全校で「泳いでいておぼれた時に大切なこと」と「心臓の働き」について学びました。

おぼれた時に大切なことは「浮いて待つ」ことです。全力で泳いで岸が上がろうとすると、体力を消耗してしまうからです。あせらず救助を待とう、と思いました。心臓は「ポンプ」の働きをしていると説明を受けました。全身に血液を送る大事な臓器なんだな、と思いました。人形を使って心肺蘇生法も学びました。この学習は毎年やっているの、「肘を曲げず、地面と垂直に胸と胸の真ん中を押すこと」というやり方を覚えていて、実際にそれをやっているところ「うまい」と言われました。すごうれしかったです。AEDの使い方も学びました。

みんなの命を助けることができるようになれば、と思いました。

救命方法を学んで思ったことは、自分の命を大切にすることです。「浮いて待つ」と「心臓はポンプ」というポイントを頭に入れて、生活していくことと思います。

おぼれた時に「浮いて待つ」ことの大切さが分かりましたが、その時、冷静に行動できるか少し心配です。川で泳ぐ時は学んだことに気を付けて泳ぎたいです。

(3年、門田来実、戸田瑞希、2年、竹内陸斗 特派員)

高知新聞 8月21日(金) 「読もっか」レッツ!五・七・五 入選・掲載された俳句です。おめでとうございます。

告白は花火をバックでお決まりだ 四万十市後川中3年 弘田 早絵

【昔の人の言葉に学ぼう】『ことわざ』って何だろう？

『ことわざ』とは、昔の人々の生活の中から生まれ、いろいろな教えや生活の知恵などを短く言い表した言葉のことです。

「<sup>たま</sup>玉みがかざれば<sup>ひかり</sup>光なし」

○どんなに能力や才能があったとしても、それをみがく努力をしなければ、持っている力を発揮することはできないということ。

「<sup>えん</sup>縁の下の<sup>した</sup>力<sup>ちから</sup>持ち」

○人目につかないところで、人のために力をつくすこと。また、つくす人のこと。

「<sup>す</sup>好きこそ物の<sup>もの</sup>上手<sup>じょうず</sup>なれ」

○自分の好きなことは、だれにいわれなくてもどんどん熱心にするので、上達するものだということ。

～家庭で取り組む高知の道徳より抜粋～